資料１－１

中濃圏域　各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
8	変更	独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院	可児市	【現状、特徴】 令和3年度　急性期病床利用率　79.8%　地域包括病床利用率63.7% 令和2年度に250床から190床へダウンサイジングし、看護体制についても7対1から10対1に変更しており、病院機能は急性期から回復期へ既に移行しつつあるが可児市、地域住民からの要求を踏まえ、現体制（急性期病床102床・地域包括52床）を維持する必要がある事を令和3年度の病床利用率が示している。 【課題】 医師・看護師の確保。	可児市及び地域住民からの要求を踏まえ、現体制を保ち急性期と回復期の両方を担う役割があるが、医師及び看護師数の不足により十分に応えられていない。現体制を維持しつつ、引き続き医師及び看護師の確保に努め、休棟中の病棟の再稼働を目指す。	実施済み	実施済み					令和3年2月までに段階的に、ハイケアユニット病床6床と一般急性期病床54床の合計60床を返還し、許可病床を250床から190床とした。